

報告タイトル

フィリピンの伝統的流通の変容：3州の野菜商人の競争性に着目して
“Transformation of the Traditional Marketing in the Philippines: From Case Studies of Vegetable Intermediaries’ Competitiveness in Three Provinces”

氏名（所属）

池田 真也（茨城大学）
Shinya Ikeda (Ibaraki University)

要旨（800字程度）

本報告では、フィリピンの野菜流通を対象とし、主要な野菜生産地から大消費地までの伝統的な卸売流通の各段階における主要な商人の競争性—農家を買いたたき、消費者に高く売りつけることなどで過剰な利益を得ていないか—を検証する。伝統的な流通を形成する主要なアクターを事前に把握したうえで、2022年4月から5月の間に、主要野菜生産地であるベンゲット州（高地野菜生産地の代表例として）・ケソン州（低地野菜生産地の代表例として）を起点としたマニラ首都圏の卸売市場までの伝統的な流通を形成する主要な商人72件へのアンケート調査を行った。そのうち、購入・販売・事業費用に関する回答に不足がなかった42件のデータを使用した。結果、ベンゲット州・ケソン州・マニラ首都圏のいずれの商人についても過剰な利益を得ている明確な証拠は得られなかった。さらに、産地卸売市場で見られる農家と卸売業者の売買を仲介する商人（売買仲介業者）に関しては過当競争に陥っている点を明らかにした。その要因として、当該商人の賃労働者の雇用費用が高い点が考えられた。一方で、売買仲介業者が行う取引の履行機能を制度化した民営市場も存在している点から、産地における伝統的な流通の変容の方向性を検討した。消費地であるマニラ首都圏の卸売業者に関しては競争が激しくなっていた点が明らかになったが、その要因の解明にまでは至らず、複雑なマニラ首都圏の流通経路に関する追加調査が必要である。